

ピースフェスティバル2026

テーマ：地球は誰のもの？今こそ平和を考えよう！



「富士見市非核平和都市宣言」の理念と平和の大切さを、みんなで考えます。

日 時：9月26日（土）・27日（日） 10：00～16：00

入場料：無料

主催：富士見市ピースフェスティバル実行委員会・市・市教育委員会

※詳しくは、ホームページをご覧ください。



<主な内容>

舞 台

会場：ホール

【9/26（土）】

11:00～

- ・オープニング 鶴瀬小学校合唱部
- ・平和祈念のつどい

広島平和記念式典市民派遣参加者の報告、富士見市非核平和都市宣言文の読み上げほか

- ・富士見市民の戦争体験を聞く

市内在住の萩原弘氏による令和7年度西中が校平和祈念講演会の映像

13:30～ 特別講演

テーマ：「あの日を忘れない！『戦争孤児』として生きぬいた私」

講 師：吉田 由美子氏（全国空襲被害者連絡協議会共同代表）

【9/27（日）】

11:00～ ピースステージ①

ふじみ三味線&音楽サークルきじむなー
訪問演劇GIFT
Masako Cross
富士見高校ジャグリング部
Crescent（クレセント）

14:30～ ピースステージ②

MISA KID☆S（ダンス）
キラリ☆かげき団
フラサークルオリオリ
コーラス歌音（カノン）＋全体合唱

展 示

会場：第1～3集会室、ホールロビー

◆企画展示

◆広島の高校生と被爆者との共同制作による

「原爆の絵」（複製）

◆市民平和作品展：俳句、短歌、絵画

◆小学6年生によるピースカード

◆市民平和メッセージ

◆ヒロシマ平和体験学習レポート

◆平和と学びのポスター展示

ふれあい広場

会場：いきい活動室

- 昔遊びコーナー
- ピースワードさがし
- 折り紙コーナー
- 原爆被害などを疑似体験できるVRゴーグル
- 富士見高校ジャグリング部
- 戦争体験を聞く会



模擬店

会場：中庭、いきいき活動室

- うどん ■雑貨
- ペットボトル飲料など

2025ヒロシマ平和体験学習報告文

毎年8月6日に開催されている「広島市原爆死没者慰霊式ならびに平和祈念式典」に市民を派遣しています。この文章は、昨年派遣された当時中学3年生の倉本眞央（くらもとまお）さん、一般公募による平岩（ひらいわ）ひとみさんによるものです。

1945年8月6日8時15分、人類史上初めて、1つの原子爆弾が広島市上空に投下されました。そしてそれによって、多くの尊い命が一瞬にして奪われた。これは日本人、いえ、世界中の誰もが知る事実です。

しかし、本川小学校平和資料館、広島平和記念資料館などで、様々な原爆についての資料や被爆者の方々の被爆体験記を聞いていくうちに、私は原爆の真実を知っていくことになりました。皮膚は爛れ、身体中に無数のガラスの破片が刺さり、熱線による火傷も酷く、もう人間なのかもわからないようなヒトがそこらじゅうにいて被爆された方は、まさに地獄のようだったと語られています。

さらに資料館のなかで、兄弟が被爆し一時期は普通に生活できるほどに回復したが、ある日突然赤い斑点が体中に出てきて、その日のうちに亡くなったというお話を読みました。被爆された方々はもちろん、遺族の方々も大切な人や場所を一瞬にして奪われ、その悲しさは想像を絶するものと思います。また私にも家族がいますので、自分の身に置き換えて考えてみるとゾッとしてしました。原爆で助かった被爆者の方達もケロイドや癌などといった後遺症や、原爆の影響に対する誤解や偏見による差別に生涯悩まされ続けたそうです。このように、原爆は被爆者の方々を肉体的にも精神的にも苦しませ、遺族の方々も精神的に苦しませ続けました。

また、ヒロシマ平和体験学習の中で最も印象に残ったのが、青少年平和文化イベントでの、被爆前、被爆当日、そして現在までの街並みの過程を見られる、360度VRゴーグルです。もち

ろんそれまでに資料などを見て、原爆の恐ろしさはよく理解していたつもりでしたが、いざ3Dで疑似体験してみると、それは想像を絶する光景でした。被爆者の方の言葉をお借りすると、まさに地獄のようでした。もし自分もそこにいたら：想像するだけで身の毛のよだつ思いがしました。

さらに今、被爆者の方々が戦争反対を訴えている中で、ロシアによるウクライナ侵攻や、イスラエルの戦争といった紛争や戦争が世界で起こっています。広島は原爆も然り、戦争被害者が今もなお増え続けています。「歴史を繰り返してはいけない。」今この世界を生きる私達にできることは何か、考え続ける必要があります。また体験学習を経て、今の日本の平和が当たり前ではないことを改めて認識しました。想いを新たに今後も、8月6、9、15日の黙祷を続けて行きます。

（倉本 眞央 2025年8月記）

人類史上、例をみない大量殺りく兵器、原子爆弾。

何万人以上もの人々を殺害し、傷つけ、その後の人生をもめちゃくちゃにした残虐極まりない核兵器爆弾が使用されてから80年。

今、世界は、国連のグテーレス事務総長が「冷戦の最悪期以来、核兵器の亡霊がこれほどまでに暗い影をおとしたことはない」と述べている通り、核兵器の脅威にさらされています。世界にはいまだ1万2000発もの核兵器が存在しており、一国のリーダーがその使用をほめかしたりする現状です。

昨年、ノーベル平和賞を受賞した日本原水爆被害者団体協議会の代表委員、田中照巳さんは非人道性に強い憤りを感じ、核兵器廃絶の実現を心から願っています。

この度、ヒロシマ平和体験学習の参加を希望し、ありがたくも行かせていただくことができ

ました。

原爆ドームをはじめ、広島平和記念資料館、本川小学校平和資料館などいくつかの資料館を回りながら、あの日起ったこと、被害の様子、その後も続く放射線の影響などを学びました。今は美しい広島市の街並み。しかし80年前、この小学校で、この橋で、突然、閃光と爆風を浴び、大やけどを負いながらこの川に飛び込んだ人、一瞬で炭化するほどの熱風を浴びて亡くなった人など、被爆者が「この世の地獄」と形容するこの地に刻まれた記憶を感じたいと想いを馳せました。人間の愚かさ、残酷さに打ちのめされ、無力感に支配されてしまいそんな感覚になりました。

そのような中、平和記念資料館で、老若男女、あらゆるルーツをもつ人々が食い入るように展示物を凝視し、静寂のなか、鼻をすすする音しか聞こえてこない場所がありました。「魂の叫び」と題した被爆者の一人一人の証言、ストーリーをクローズアップしている展示スペースでした。人間には共感力がある。被爆者の想いは時をも超えて伝えていくことができる。共感し自分事として捉える力こそが、人間のエゴや核兵器の存在を肯定しているロジックを乗り越えていける力となりえるものだと思います。

そして、平和記念式典でのこども代表2人の力強い声が響き渡った「平和への誓い」。式典終了後に開かれた「全国こども平和サミット」で発表された次代を担っていくこどもたちの各地域での平和への取り組み。その姿に希望を感じることができました。

今回学べたことを胸に刻みながら、「シンク・グローバル、アクト・ローカル」の言葉にあるように、日常の中で、人類の平和への道を考え行動していける自身でありたいと思います。

最後になりましたが、お世話になりました。ピースフェスティバル実行委員会の皆さま、鶴瀬公民館の皆さまに心より感謝申し上げます。

（平岩 ひとみ 2025年8月記）

公民館だよりを読んでのご感想やご意見をお寄せください。電話・FAX・窓口で受け付けています。